

## Lesson 8 First Double Stop

### Lesson 8 ダブルストップ#1

今度はダブルストップだよ。

ダブルストップとは、2つの弦を同時に弾くやり方だね。

最初は…

-playing(0:13)-

この2つの音だよ。

人差し指が2弦3フレットD、そして中指が3弦4フレットBだ。

馴染みのあるサウンドだよね。

-playing(0:30)-

弾いてない他の弦が鳴ってしまわないように気を付けてね。

僕の場合は、それを防ぐために無意識に右手薬指を1弦の上に乗せている。

最初のうちは色々注意しなければならないことが沢山あるから難しいと思うけど、必要のない弦は鳴らさないよう心掛けてね。

そのうちに自然にできるようになるからね。

僕自身もいちいち考えてやっている訳ではなく、その場に応じて自然にやっている。

(1:25)

ということで、最初のダブルストップはこの2つの音だよ。

これに1弦開放Eを合わせると、これも馴染みのあるサウンドになるね。

-playing(1:41)-

でしょ？

この場合は（3音だから）トリプルストップとでも言うべきかな？

もしくは、和音（コード）という解釈もできるかもしれないね。

いずれにしても、大切なのはこの2つの音。

-playing(1:58)-

そして、さっき言ったように1弦開放Eを混ぜてもいいね。

-playing(2:04)-

(2:11)

このように薬指を5弦と4弦上に乗せて不要な音が鳴るのを防いでいるよ。

(このケースでは) この方法しかないね。

-playing(2:20)-

(2:27)

僕はこんな感じで、弾いた後すぐに右手を弦の上に乗せて音をミュートするよ。

-playing(2:30)-

次の音に行く前に、それまで弾いていた音を止めるためによくやる手段だよ。

-playing(2:37)-

【注記】

- ・押弦するポイントについて Robben は様々な言い方をしていますが、ここでは「5弦3フレットC」「6弦開放E」などの表記に統一します。
- ・翻訳モノにありがちな読み難さの一因となっている「直訳」を排除した結果、Robben の実際の言葉とは若干違った表現になっている箇所がありますが、読者にとってのストレスのない自然な理解を促すためのものであり、Robben が言わんとしていることはそのままに、大局を損なうことのない翻訳を心がけました。
- ・モードの解説において「○○スケール」と「○○モード」の言葉の使い分けはせず、Robben の言に最大限忠実に訳しながらも、より理解をしやすいように、柔軟にそれぞれを言い換えて訳しているケースもあります。

翻訳 山岸敦